※令和３年度以前入学生用

学校番号	324

令和５年度　理数科

教科	理数	科目	理数生物	単位数	4 単位	年次	3 年次
使用教科書	「改訂版 生物」（数研出版）						
副教材等	「セミナー生物」（第一学習社）、「フォトサイエンス生物図録」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

2 年次の理数生物の継続で行います。教科書・図録・問題集すべて 2 年次のものを引き続き使用します。1 年次の科学と人間生活、2 年次の理数生物の授業で習った内容がさらに深まり、受験に対応できる知識や理解、思考力を身に着けましょう。そのためには、くり返し考え、知識・情報を整理して利用していく努力が不可欠です。問題演習の時間も増やしていきましょう。
卒業後も科学や自然、動物・植物などに興味を持ち続け、その関連の職業に就く人が出てくればうれしいです。
1 年間、しっかりと学びましょう。

2　学習の到達目標

2 年次では生命現象と物質についてミクロの視点で生物を学んできました。3 年次では、生物基礎で習った内容をベースにして、生物の発生や植物の環境応答、動物の反応と行動、個体群や生態系、生物の進化、生物の系統など、マクロな視点で生物について学び理解します。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	生物や生命現象に関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物どうしの関わりや進化してきたプロセスなど科学的な見方や考え方を身に付けている。	生物や生命現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・原則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察、ノートの記述、実験レポートの記述	学習状況の観察、ノートの記述、実験レポートの記述、発表、定期考査の結果	学習状況の観察、ノートの記述、実験レポートの記述、定期考査の結果	学習状況の観察、ノートの記述、実験レポートの記述、定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	有性生殖・動物の発生・植物の発生・植物の環境応答・動物の反応と行動	有性生殖	○			○	a 動物の配偶子の形成の過程と受精のしくみを理解している。 c ウニやカエルの発生過程や発生初期の細胞分裂について理解している。 d カエルの器官形成について理解している。 d 形成体とその誘導現象について理解している。 b 植物の生殖や発生について理解している。 b 植物ホルモンの種類やその働きについて理解している。 a 花芽形成のしくみについて理解している。 d 動物の受容器について理解している。 d 動物の神経系について理解している。 d 動物の行動について理解している。	学習状況 ノート 小テスト 発表 実験 定期考査
		動物の発生			○	○		
		発生のしくみ 誘導		○		○		
		植物の発生 器官の分化				○		
		植物ホルモン 花芽形成のしくみ		○		○		
		受容器 神経系	○		○	○		
		効果器 動物の行動		○		○		
後期	個体群・生態系・生物の進化・生物の系統	個体群と相互作用	○			○	a 個体群とその相互作用について理解している。 b 生物群集とその関係について理解している。 C 様々な生態系を観察し、その構成要素について理解している。 d 生態系やそれを取り巻くものについて理解している。 d 環境問題について理解している。 d 進化のしくみについて理解している。 d 生物の起源とその変遷について理解している。 d 生物の分類の方法やその系統について理解している。	学習状況 ノート 小テスト 発表 定期考査
		生物群集とその関係		○		○		
		生態系			○	○		
		生物多様性とその保護	○			○		
		進化のしくみ	○	○		○		
		生物の起源とその変遷	○	○		○		
		生物の分類と系統	○			○		

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。